

標茶町図書館アンケート結果報告書（総合版）

1 調査概要

本調査は、標茶町図書館の現状把握および今後の整備方針検討の基礎資料とすることを目的として、小学生および一般町民を対象に実施した。

■対象

小学生および一般町民

■回答数

小学生：214 件

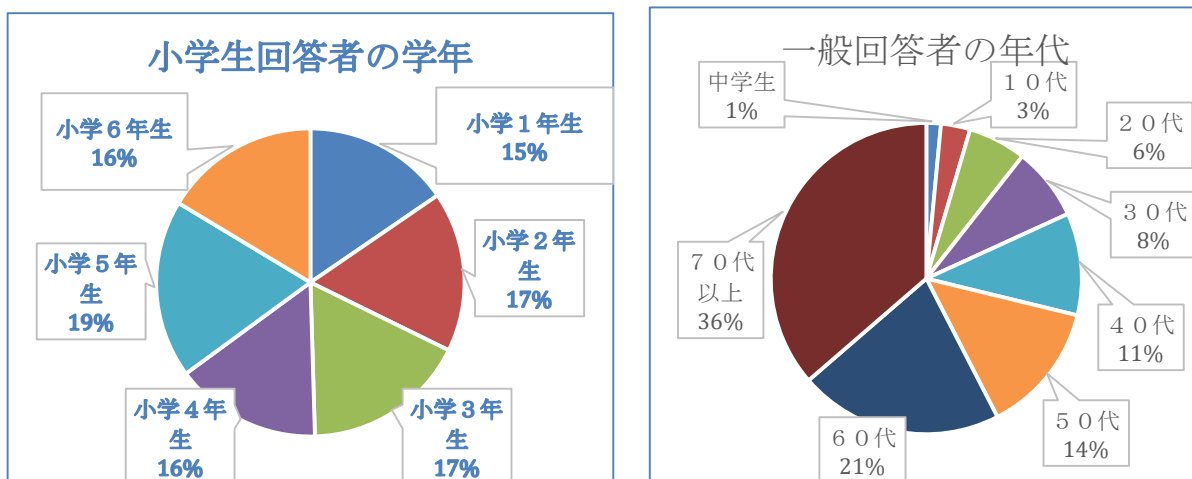
一般：66 件

■調査方法

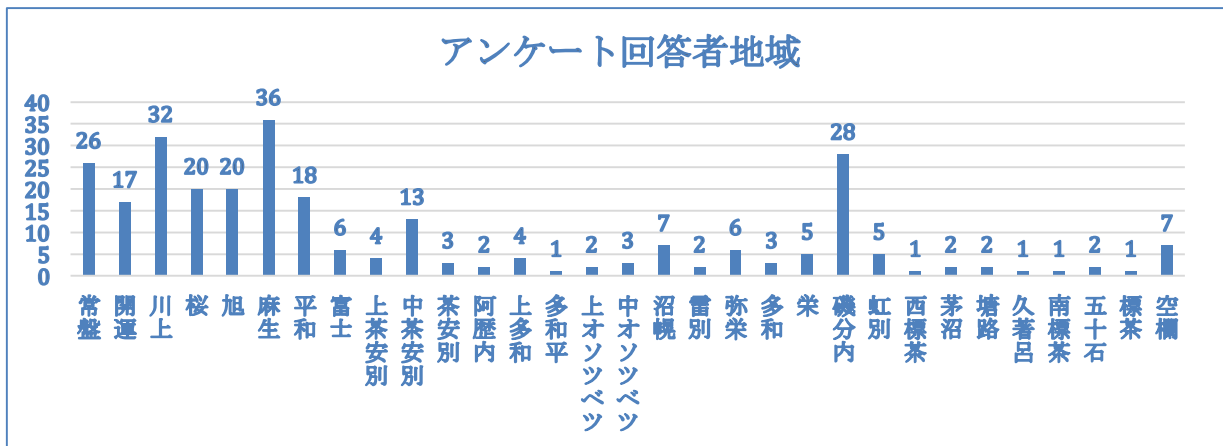
配布アンケート方式により実施した。

2 回答者属性

一般回答者は高齢層の割合が比較的高く、小学生については全学年から均等に回答が得られた。

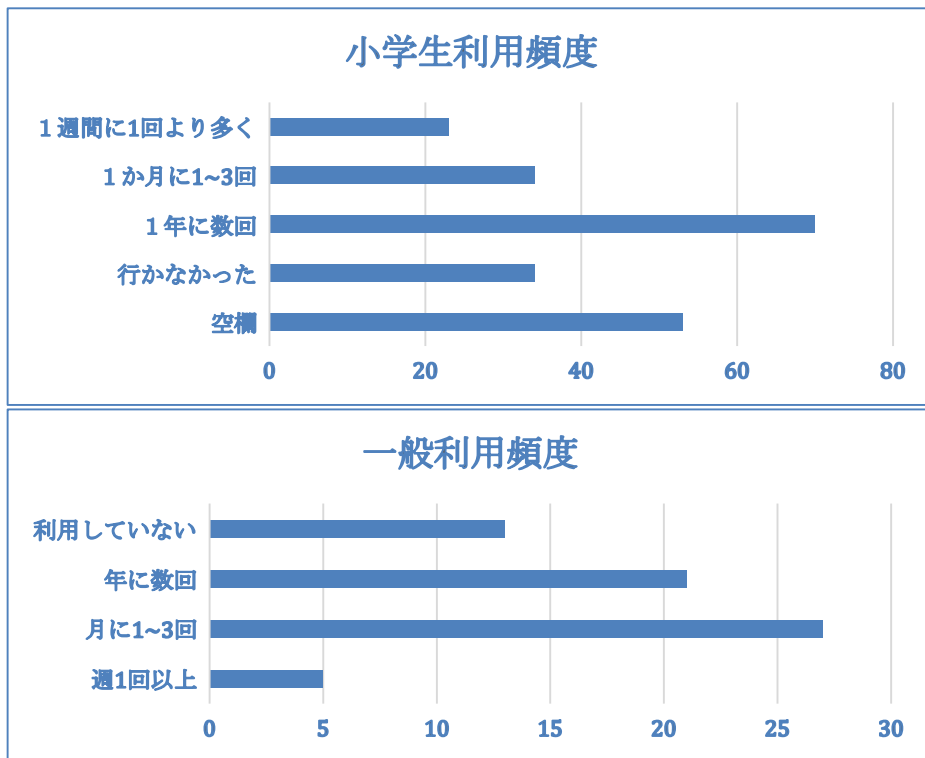


居住地区についても広範囲から回答があり、地域全体の傾向を把握できる結果となった。

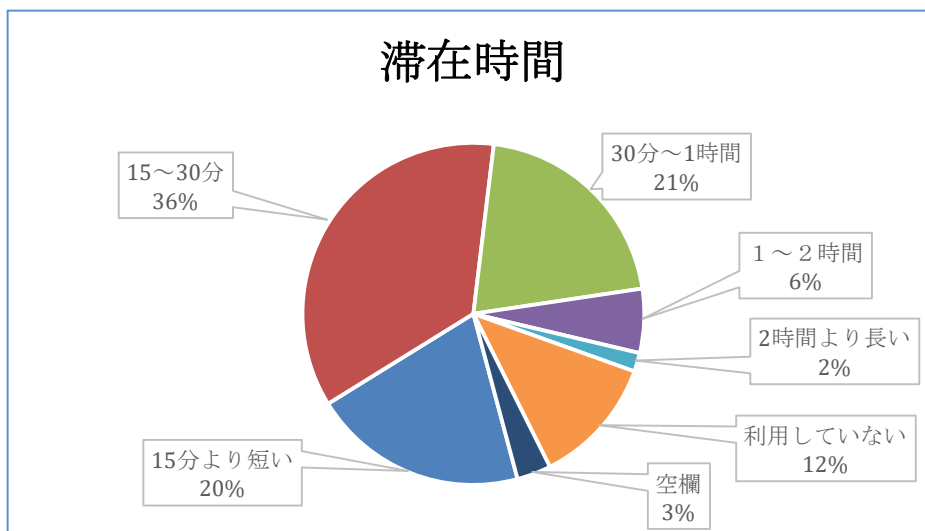


3 利用実態

利用頻度については、小学生では「年に数回」が最多であり、一般では「月に1～3回」が最多であった。日常的利用者と低頻度利用者が混在している状況が確認された。

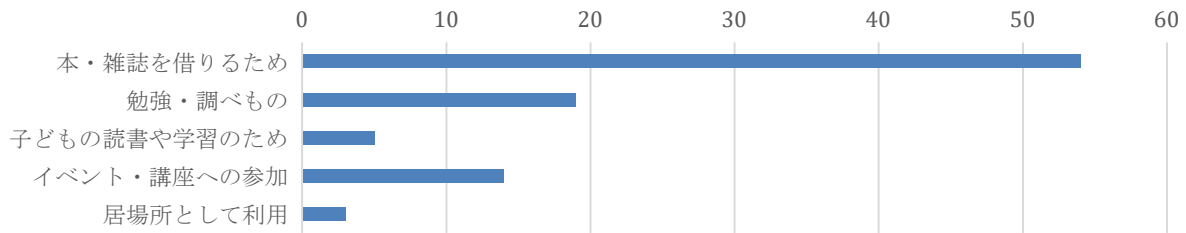


滞在時間は短時間利用が中心であり、現状では滞在型施設とはなっていない傾向が見られる。

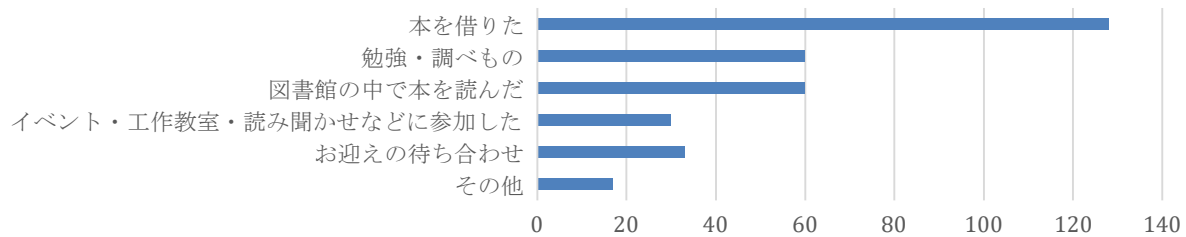


利用目的は小学生・一般ともに本や雑誌の貸出が中心であり、図書館の基本機能は維持されている。

一般の利用する主な理由（複数回答）

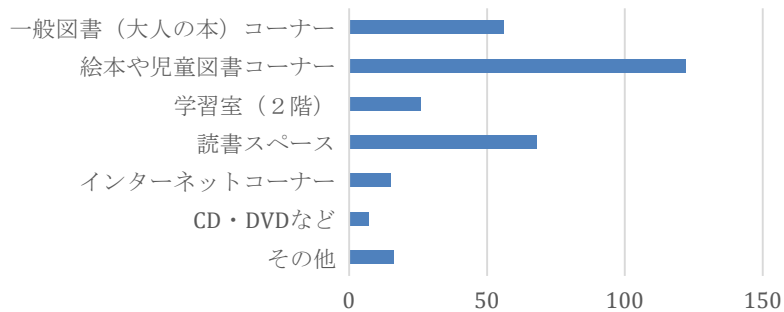


小学生利用目的

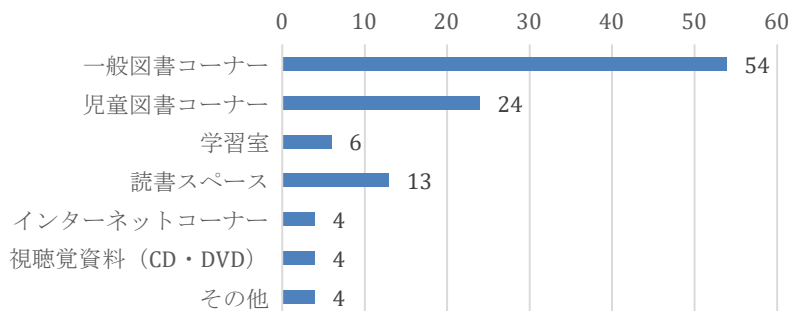


利用場所は小学生では児童コーナー、一般では一般図書コーナーが中心であった。

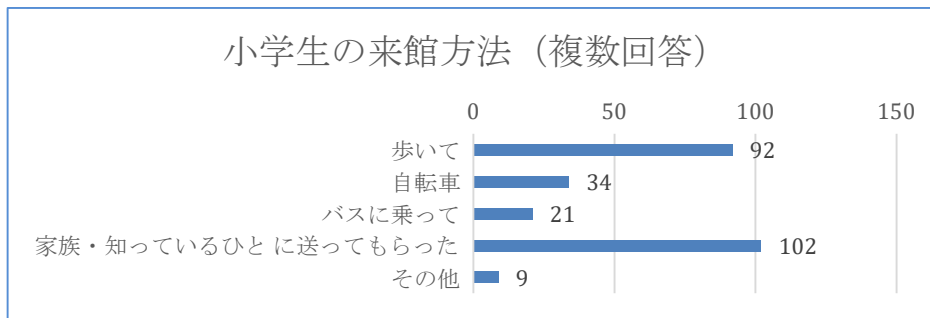
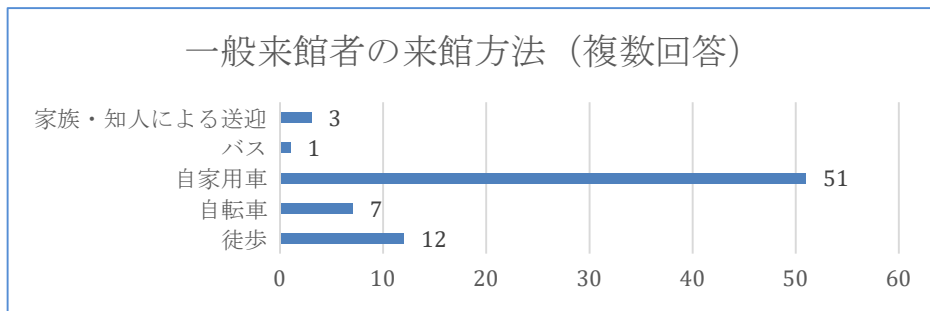
小学生の主な利用場所（複数回答）



一般利用者の主な利用場所（複数回答）



来館手段について、小学生は送迎が多く、一般では自家用車の利用が多いことから、駐車場の重要性が確認された。



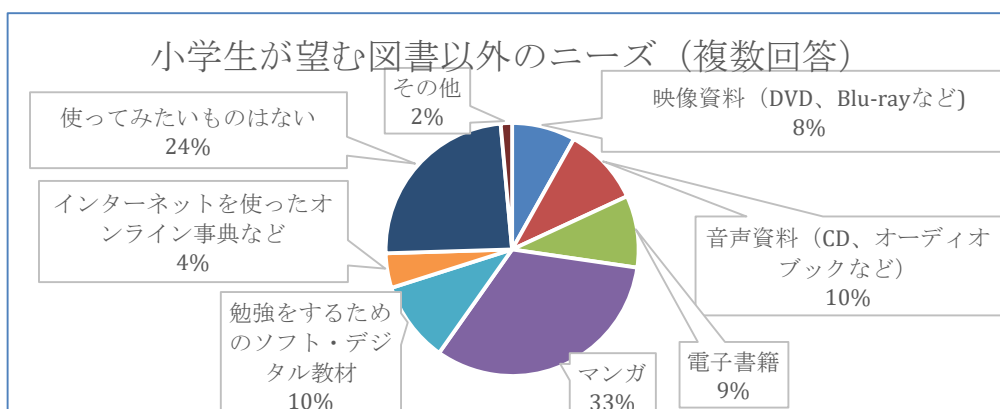
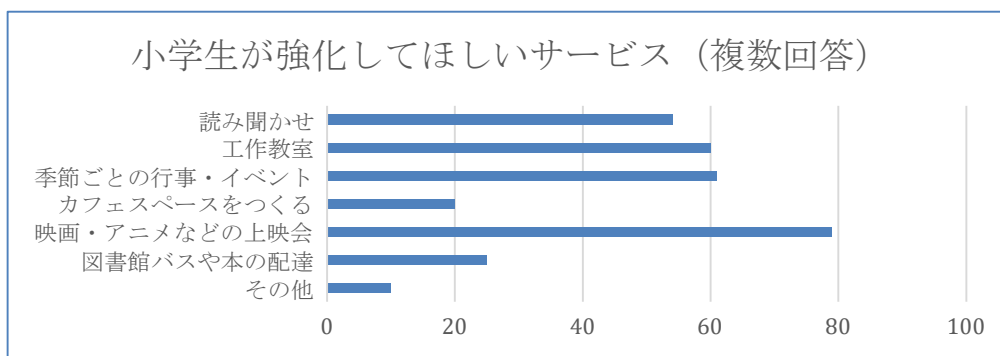
4 図書館サービス評価

蔵書数については概ね満足との評価が多く、資料量について大きな不足は見られなかった。

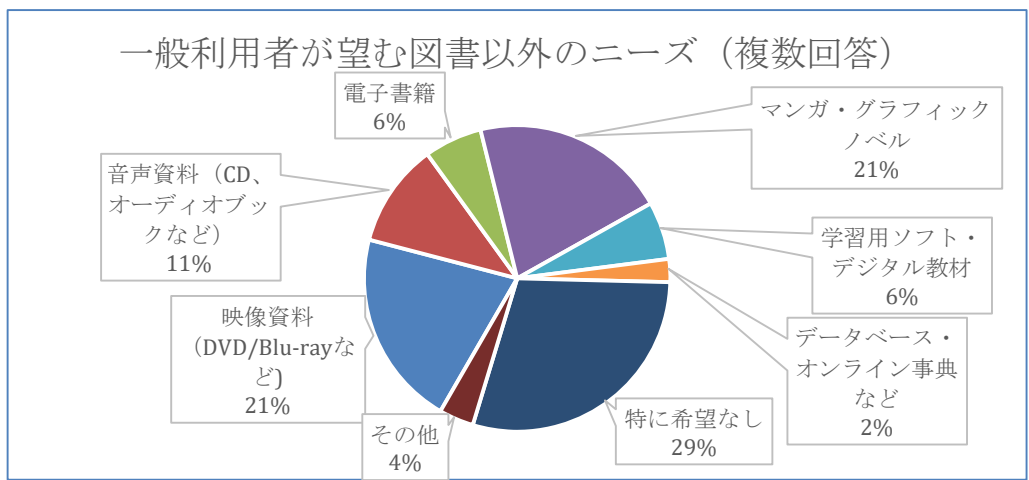
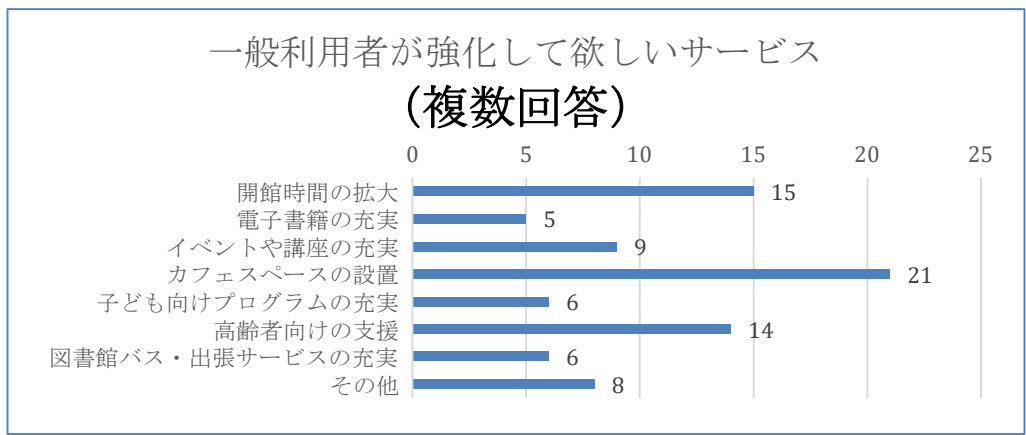
図書館行事については小学生では一定の参加が見られる一方、一般では未参加が多く、周知の不足が課題として考えられる。

5 利用ニーズ分析

小学生では映画上映や工作教室などの体験型イベント、児童スペースの充実、図鑑やマンガなどの資料へのニーズが高かった。



一般ではカフェスペースの設置、開館時間の拡大、高齢者支援、快適な閲覧環境などの要望が見られた。

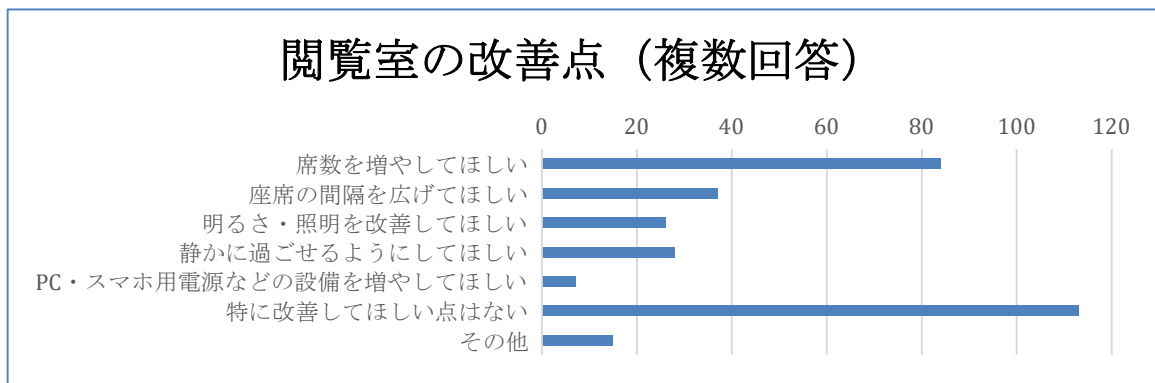


両者の結果から、図書館に対して居場所機能や滞在機能を求める傾向が確認された。

6 施設改善ニーズ

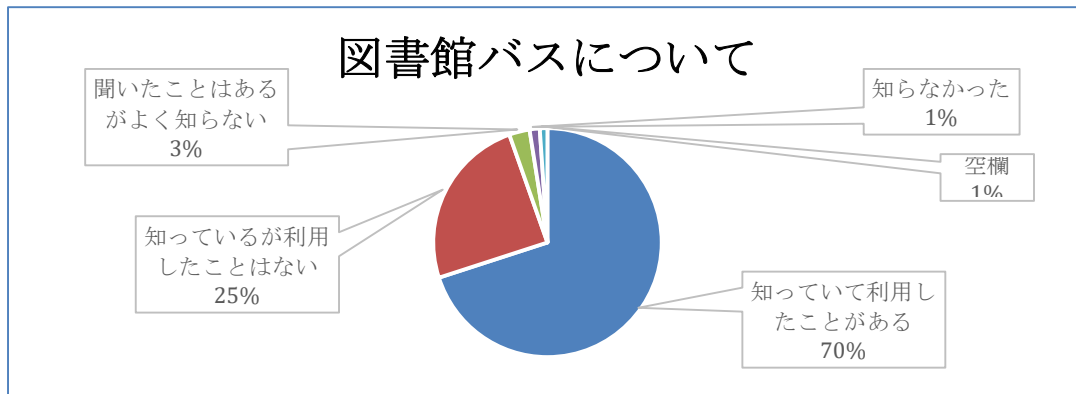
閲覧席の増設、明るさの改善、空間のゆとりなどが共通の課題として挙げられた。

一般ではトイレや空調、バリアフリー、駐車場など施設設備に関する改善要望が多く見られた。



7 図書館バス

図書館バスについては認知度が高く、利用経験者も多いことから、重要なサービスであることが確認された。



8 自由記述分析

自由記述では、館内の暗さやスペースの狭さ、椅子やトイレの改善、Wi-Fi 環境、駐車場など環境面に関する意見が多く見られた。

また、イベントやサービスの充実を求める声も一定数確認された。

9 総合分析

本調査から、図書館は貸出機能を中心としつつも、多世代が利用する公共施設としての役割が期待されていることが確認された。

利用者は快適な閲覧環境や滞在機能、交流機能を求めており、従来の機能に加え居場所としての役割が重要となっている。

10 結論

図書館には学びの場としての機能に加え、交流や居場所としての機能が求められている。

本結果を踏まえ、今後の施設整備および運営方針の検討を進める必要がある。

調査方法の評価と留意点

本アンケートは、小学生以上の町民 6,476 人を対象として実施し、280 件の回答を得た。回収率は約 4.3% であり、全町民を対象としたアンケートとして一般的な水準である。

1 回収率について

本調査は記名式で実施したため、無記名式に比べ回答率がやや低くなる傾向があるが、記名式は回答内容の信頼性が高く、回答者が内容を慎重に記入するため、計画検討の基礎資料として有効性が高いと考えられる。

2 記名式調査の特徴

記名式調査は、回答率は無記名式より低くなる傾向がある一方、回答の信頼性が高く、意見の重みがあることが特徴である。本調査においても具体的かつ実態に即した意見が多く得られている。

3 調査結果の活用について

本調査は任意回答によるものであり、回答者の意向が反映された結果であるが、回答内容の傾向は明確であり、図書館整備の方向性検討における基礎資料として十分に活用可能である。

4 今後の調査への示唆

今後、より幅広い意見収集を目的とする場合には、無記名式やオンライン回答の併用など、回答しやすい手法の導入を検討することが望まれる。

回収率の評価について

本アンケートは、小学生以上の町民 6,476 人を対象として実施し、280 件の回答を得た。回収率は約 4.3% である。

1 回収率の位置づけ

全町民を対象とした配布アンケートにおいては、回収率は一般的に 2～5% 程度となることが多く、本調査の回収率はこの範囲内であり、実務上標準的な水準である。

2 回収率の評価

本調査は記名式で実施していることから、無記名式に比べ回答率は低くなる傾向があるが、その分回答内容の信頼性は高く、具体的な意見が得られている。

3 調査結果の信頼性

回答数は 280 件と一定の規模を確保しており、回答内容の傾向も明確であることから、図書館整備の方向性を検討する基礎資料として十分活用可能である。

4 総合評価

以上のことから、本調査の回収率は実務上適切な水準であり、調査結果は図書館整備の検討における有効な資料であると評価できる。